

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

<b>事業所名</b>	グループホーム 福治の里
日付	平成19年3月31日
	特定非営利活動法人
<b>評価機関名</b>	ライフサポート
評価調査員	在宅介護経験12年
評価調査員	老人保健施設介護実務経験6年、居宅支援事業所介護支援専門員経験6年
<b>自主評価結果を見る</b>	(まだリンク先はありません)
<b>評価項目の内容を見る</b>	
<b>事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)</b>	

**外部評価の結果**

<b>講評</b>
全体を通して(特に良いと思われる点など) 『健康と食事』が、このグループホームのサービスの重点事項である。人間にとっても一番大切な事を自然な形でケアの中心に置いている。 『野菜を畑に植え、大きく育てた野菜を収穫する。自家栽培の野菜の他、購入する野菜類は国産、魚は地物を使う。半調理品は使わず、手作りする。野菜の下処理、下拵え、調理、盛り付け等、利用者の出来る事は手伝ってもらい、利用者の好みについても個別に出来るだけ対応している。そして食卓で、皆で作った料理を、皆で味わう。その喜びも一緒に味わうようにしている。又、利用者が健康に過ごしてもらう為には、食に一番こだわっている』と管理者は言う。 2つのユニットに各1名看護師がいる。日常の健康管理にも、緊急時にも心強い。健康チェックの状態などを医師と定期的に連絡し、情報交換している。そして1月に2回の往診してもらい、早期に対応出来るので、大事には至っていない。利用者も家族も安心して暮らせるのが嬉しい。 訪問した日は良い天気で、ベランダに布団を干したり、裏庭では利用者と職員が思い思いに芝生の上を歩いたり、草抜きをしていた。敷地の周囲には6,7本の桜が植えてある。大きくなったら、ここで花見が出来たら。近所の人を招いて、桜祭りでも出来そうだ。 リビングルームでは、利用者と職員が寄り添って話しをしながら笑顔が漂っている。傍らの人にも嬉しさを感じさせている。利用者はゆったりとした時間を過ごし、それぞれに好きな事をしながら温かみのある空間を形成している。一人ひとりが自分の出来る事を見出し自己実現に充実感が味わえるグループホームを見せてもらった。
特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした 家族への情報提供に、生活面や利用者の気持ちに寄り添われると嬉しいと思う。 記録の中に利用者の思い、嬉しさ、悲しさ、怒り等具体的に記述され、そこに職員の気づきを追加すると生きた記録になると思う。 家族を、お客様としてではなく、協力者として職員との関係を築き上げていくと、良い雰囲気が出来るのではないだろうか。

**I 運営理念**

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
<b>記述項目</b>	グループホームとしてめざしているものは何か 特別養護老人ホーム、ケアハウスを主体に、居宅介護支援事業を展開している母体法人が認知症の人が多く待機しているのを見かねて、法人の近くにグループホームを作る予定だったが、現在立地している地主からの働きかけがあり、1年前に設立された。 職員も特養ホームの経験者が多く、グループホームの運営には戸惑ったところもあっただろうが『笑顔、楽しみ、ゆったりとした時の流れ、出来る事をし、健やかな生活』を目指して、管理者と職員が同じ思いで利用者支援している。 笑顔と楽しみのある心地良い生活、ゆっくりとした時間の流れで、自然と触れ合いのある生活という事で、長い目でゆったりとした気持ちで心掛けていこうと考えている。この地域は田園地帯でびっぴりの環境といえると思う。		

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
<b>記述項目</b>	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 玄関に入って、ホールの左右に両ユニットのリビングルームがある。リビングは広々としたゆとりのある空間で、オープンキッチンがある。ここから各居室を見渡せるようになっている。午前中と午後のおやつ後は、利用者は主にリビングで皆と一緒に過ごしている。しかし、全員で何かするのではなく、利用者一人ひとりに個別対応して、仲の良い人同士で話したり自分の好きな事をして楽しんでいる人等、それぞれの人の思いが叶えられるよう支援している。利用者は好きな人を訪ねて、ユニット間を行き来している。外部も広い芝生があり、花壇や菜園があり、植物との触れ合いをしたり、桜の木が大きくなれば、花見も楽しめそう。周辺は田園地帯で自然との共生が出来、人の心豊かにしてくれる。		

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

**III ケアサービス(つづき)**

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
<b>記述項目</b>	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 設立して1年、特養ホームで長年経験してきた職員も、グループホームでのケアやマネジメントは初めての人が殆どで、戸惑う事も色々あったと思う。又、新しい職員も利用者のケアをしながら、一つひとつ体験したり失敗したり積み重ねが、次のステップを固めていく事になる。 認知症について勉強会もして、職員間で知識の吸収をしたそうだが、認知症ケアは一朝一夕で卒業出来るものではないので、何度も内外の研修を重ねていてもらいたい。 利用者と一緒に生活をするということから、利用者の過去の経験や技能を活かしていく事も多いが、利用者は出来る事をしながら、自分らしい生涯を実感する為には、一日一日に何かの自己実現をしてみる事が必要だと思う。これは小さい事でも良いし、一寸した知恵を貸すことでも良いのと思う。自由気ままに、のんびりと生活をしていく利用者の裏舞台では、職員の人としての資質と職員のする一つひとつの業務の積み重ねである。グループホームだからこそ、職員の必要な業務のこなしは特養ホーム以上に必要ではないかと思う。その礎があるからこそ、利用者は安心して暮らせるものと思う。		

**IV 運営体制**

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
<b>記述項目</b>	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 運営推進会議は、地域との結びつきが出来きかけ作りである。この機会を最大限活用して、地域の人々に、ホームの存在を理解してもらい、ホームに協力する気持ちを持ってもらえるようになってもらいたい。民生委員が早速「こんな行事がありますよ」と教えてくれたそうだ。この積み重ねだと思う。根気よく一つひとつ根付かせてもらいたい。 グループホームを支えるのは職員である。人である。管理者と職員は、仲良く笑顔一杯で頑張っている。共に前向きで全ての業務に取り組んでいって欲しい。		